

西原地区

I 協議体の概要

名 称		にしはら支え隊			
設置年月日		平成30年2月17日	開催頻度		12回/年
構成団体 (◎: 事務局)					
<input type="radio"/>	自治会連合会	<input type="radio"/>	まちづくり協議会	<input type="radio"/>	民生委員児童委員協議会
<input type="radio"/>	老人クラブ連合会	<input type="radio"/>	福祉協力員連絡会	<input type="radio"/>	健康づくり推進委員会
<input type="radio"/>	市社会福祉協議会	<input type="radio"/>	地域包括支援センター	<input checked="" type="radio"/>	その他 (社会福祉法人 西原福祉会)
設置方式					
<input type="radio"/>	新規設置	既存会議活用 ()			地域ケア会議活用
設置要綱・会則等の有無			有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無		
設置までの経緯					
時 期		内 容			
平成29年10月		地域ケア会議 (メンバー: 地区社協, コミュニティ協議会, 民児協, 民生委員, 福祉協力員, 単位自治会長, PTA等) → 地域包括ケアシステム, 第2層協議体について共通理解を図り, 地域に必要な取組について意見交換を行った。			
11月		地区社協理事会, 民児協定例会 → 西原地区における第2層協議体に向けた取組状況について情報共有			
12月		勉強会① (参加者: 自治会連合会, コミュニティ協議会, 地区社協, 民児協, 民生委員, 福祉協力員, 単位自治会長, 有志住民等) → 地域の支え合いについての講演を通し, 第2層協議体の必要性について広く共通理解を図った。			
平成30年 1月		勉強会② (参加者: 勉強会①と同様) → 助け合いについてワークショップを行い, 協議体活動について理解を深めた。			
2月		勉強会③ (参加者: 勉強会①②と同様) → 勉強会の振り返りを行い, 協議体の進め方等について検討 ⇒ 協議体設置について合意形成を図った。			
〃		第2層協議体設置			
協議体における検討内容 (協議体で取り組んできたこと, 議論してきたこと)					
地域情報の共有, 課題やニーズの把握について		<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターや各地域団体からの活動報告, 民生委員からの情報提供 住宅地図を基に, 地区内の社会資源について意見交換 困りごとに関するアンケート調査を実施 			
支え合い活動について (見守り活動, 居場所づくり, 生活支援ボランティア等)		<ul style="list-style-type: none"> 草むしり活動を試行 「スマホ教室」の実施について検討 			

II 取組事例

【草むしりボランティア】

経緯：

令和元年 8月 困りごとや手伝えることについてアンケート実施
 11月 アンケート結果に基づいて意見交換
 ⇒ ニーズが高い「草むしり」について、
ボランティアの創出を検討

令和2年 7月 担い手と利用者の募集、ボランティア保険加入
 8月 草むしり活動試行

【活動の様子】

対象： 地区内の高齢者
 内容： 個人宅の草むしり
 (1時間程度)



※ 回覧で担い手と利用者を募集し、
協議体で結びつけた上で実施

【草むしり活動の仕組み】



効果（検討中の場合は、期待する効果）

作業依頼を通して、支援が必要な高齢者の現状を把握することができたほか、利用者と支援者のマッチング方法など、今後のボランティア活動に向けた、課題を見つけることができた。

【スマホ教室】

経緯：

令和2年 9月 高齢者の見守りや安否確認、困りごとの把握方法について意見交換
 → スマートフォンを日頃から高齢者に使用してもらうことにより、安否確認がしやすくなることや、地域のネットワークづくりにつながることから、高齢者向け「スマホ教室」の開催を提案

11月 協議体メンバーで「スマホ教室」試行
 12月 回覧にて参加者とスタッフを募集

令和3年 1月 「スマホ教室」開催

対象： 地区内のスマートフォン初心者
 内容： 電話をかける等の基本的な操作や、LINEの操作、詐欺に対する注意喚起など（定期的な開催を予定）



【「スマホ教室」の様子】

効果（検討中の場合は、期待する効果）

- ・ 「スマホ教室」の場で地域の方々が多世代交流することができ、情報交換の場にもなった。
- ・ 定期的な開催することにより、参加者やスタッフ、協議体メンバー等、つながりづくりにつながる。

III 協議体を設置して、良かったこと

- ・ アンケート調査や情報共有を行ったことにより、地域の現状を把握することができた。
- ・ 「まずはできることからやってみる」という考え方にに基づき、自由に意見交換を行うことにより、取組に繋がる様々なアイデアを出し合うことができた。

IV 今後の方向性

- ・ 「スマホ教室」を活用した居場所づくりの検討
- ・ ボランティア活動による地域の繋がりづくりについて検討
- ・ 第2層生活支援コーディネーターの活動を通じた高齢者困りごとやニーズの把握